

二重眼瞼下垂（タッキング法）とは

眼瞼下垂とは、まぶたを開く筋肉の力が弱まり十分に目が開かなくなる状態のことです。眼瞼下垂タッキング法では、眼瞼挙筋を縫い縮めることで、まぶたの開きを良くする手術です。まぶたの開きが改善することにより、眼精疲労、頭痛、肩凝り、腰痛などが改善し、不自由だった日常生活が快適になる場合が多いです。

眼瞼下垂（タッキング法）の持続性

眼瞼下垂（タッキング法）は半永久的な整形ではありません。まぶたが厚い方、目を擦ったり触ってしまう癖のある方は持続期間が短くなる恐れがあります。

眼瞼下垂（タッキング法）後の状態・ケアについて

- ・当日は長時間の入浴はなるべく避け、軽いシャワー程度にしてください。術後1週間程度は血流が良くなることでの腫れを防ぐため、熱いお風呂を避けていただくことをおすすめします。
 - ・当日は手術部位に触れたり、濡らさないようご注意ください。術後24時間経過後はまぶた周辺も含め洗顔フォームを使用して洗顔可能です。
 - ・アイメイクは3日後から可能です。お目元以外のメイクは手術後から可能です。
 - ・大きな腫れは、1週間程度で引いていきます。
 - ・内出血については、個人差がありますが数週間前後で消失します。
 - ・飲酒は血流が良くなり腫れが長引く原因になりますので、3日ほどお控えください。
 - ・運動は血流が良くなり腫れが長引く原因になりますので、軽い運動は術後3日、激しい運動は1週間ほどお控えください。
 - ・術後3日間はコンタクトレンズの装着はお控えください。術後しばらくは瞼の裏に違和感があったり、目がゴロゴロすると感じる場合があります。コンタクトレンズは、違和感がなくなってからの使用をおすすめいたします。
- ※経過観察をする目的で施術部位の写真を撮らせていただきます。撮影させていただいた写真に関しては、厳重に保管し患者様との経過観察以外で無断使用することはありませんのでご安心ください。
- ※左右差や腫れなど、気になる症状がある場合には1ヶ月程度様子を見てください。
- 1ヶ月以上経過しても違和感が継続している場合、クリニックまでご連絡ください。
- ※授乳中の方は、術後48時間は断乳して頂きますようお願い致します。

眼瞼下垂（タッキング法）で生じる可能性のあるリスクについて

【内出血】

目の周辺に内出血が生じる場合があります。最初は青黒い色みでその後黄色→肌色と変化していきます。出現や消失には個人差がありますが、数週間かかる場合があります。

【左右差】

手術直後より左右差が出る場合がありますが、殆どの場合時間を置くことで差がなくなっていきます。ダウンタイム中は左右差を強く感じる場合があります。術後1ヶ月は様子を見ていただき、それ以上経っても左右差が気になるようでしたらご相談ください。

【痛み】

局所麻酔の注射時に痛みがあります。術中は麻酔の効果で痛みはありませんが、術後麻酔が切れると痛む場合があります。痛みがある場合は処方される内服薬をお飲みください。

【腫れ】

当日より若干の腫れが起こります。概ね2週間前後で腫れは引いていきます。

【感染】

術後、感染が生じると傷口の治りが悪くなったり、腫れが強くなる場合があります。場合により、抗生剤の内服や抜糸等の外科的処置が必要となります。

【目のゴロツキ、充血、結膜炎】

術後、目がゴロゴロするような違和感や充血などが出る場合があります。目の違和感が続くようであればご連絡ください。

【兎眼(とがん)】

まぶたが開きすぎて目が閉じられない状態を兔眼と言います。時間経過により改善することもあります。再手術が必要になる場合もあります。

【糸のボコつき】

皮膚の薄い方は糸の結び目が若干浮き出ることがあります。まれに再手術が必要になることもあります。

眼瞼下垂（タッキング法）をお受けいただけない方

妊娠中の方、親権者の同意がない未成年の方、まぶたに怪我や炎症がある方、局所麻酔剤にアレルギーをお持ちの方は手術を受けられません。

©2024 医療法人社団 桜恵会

THE ONE.